

公園の風景

= 2台の観察カメラ =

園内にはビジターセンターから遠隔操作ができる2台の観察カメラが設置してあります。一台は観察展望棟の屋根の上に立っているもので（右下写真の矢印参照）、もう一つは中央園路のヨシ原のふちに設置されています。撮影範囲は360度。2台のカメラが園内だけでなく、ビジターセンターにいながらにして土路石川や干潟の外の様子が見えるようになっています。今度公園を歩くとき気をつけて見てみてくださいね。

= ヨシ原の小さい命たち =

秋も深まり、アキグミ、トベラ、ハマサカキ、クロガネモチなどの公園の樹木にも沢山の実がなるようになりました。鳥たちにとって嬉しい時期です。

また、公園内には広いヨシ原があります。一見何も無いように見えるかもしれませんが、実は、ヨシは鳥にとって大事な植物です。ヨシの茎は空洞になっていて、そこにいろいろな虫が住み着いています。鳥たちはそれを知っていて、ヨシの茎の皮を剥いで、そこにいる虫を食べているのです。ヨシ原をよく見ると、オオジュリンやツリスガラなどの小さな鳥達が集まっています。



葦原から展望棟を望む（赤矢印の下にカメラ）

= ミサゴの人工巣台 =

公園の東側に建設されたミサゴのための人工巣台は築後半年。ときにミサゴやカラスがテッペンに止まり食事をしたり羽を休めたりしているのが観られるが、やがて素っ気なく飛び去って行く。いまでも所在なさ気に初冬の柔らかい日差しの中にじっと佇んでいる。ミサゴにとってはまだ自分の家にする気がないのだ。「来年の繁殖期には入居者が決まるかも知れない」とのレンジャーの言葉を信じ、葦の会もじっと時期を待つ。ミサゴが夫婦でいそいそと抱卵、育児を始める来年の初夏を。楽しみだなあ～。